

夜間中学の設置に向けた検討事項

I 県立高等学校再編将来構想具体化検討委員会で示した検討事項

論点1 生徒の受入れに関すること

・・・第1回、第2回(本日)、第3回部会(9月)

〈基本的な考え方〉

- 学齢を超えた者、外国にルーツのある者、不登校経験者など、多様な入学希望者に対応する必要がある。
- 学齢期の生徒の受入れについては、小中学校との連携が必要となる。

[検討内容]

ニーズ調査の実施、入学者の受入れ方法、学齢期の生徒受入れにおける課題

論点2 学習内容に関すること・・・第2回(本日)、第3回部会(9月)

〈基本的な考え方〉

- 日本語指導が必要な外国にルーツのある者や不登校経験者、小学校段階からの学び直しが必要な者にも対応するカリキュラムが必要となる。

[検討内容]

多様な生徒に対応した学習内容とするための方法などの検討

論点3 その他・・・第3回部会(9月)

- 夜間中学では、生徒の希望に応じて学校給食を提供する。(夜間定時制高校の調理場を活用する方向で検討)
- 市町村との連携のあり方についての検討

II 追加の検討事項

論点4 教職員等の配置に関すること

・・・第1回、第2回(本日)、第3回部会(9月)

〈基本的な考え方〉

- 夜間中学には教育内容の実施に必要な教職員のほか、教員以外の専門スタッフや開校準備員などを考える必要がある。

[検討内容]

教職員、教員以外の専門スタッフ、開校準備員

論点5 設置形態に関すること

・・・第1回、第2回(本日)、第3回部会(9月)

〈基本的な考え方〉

- 県立夜間中学4校について、設置形態を考える必要がある。

[検討内容]

設置形態、1日の授業時間、始業及び終業の時間、学校施設

(参考) 夜間中学の設置について

(愛知県 定時制・通信制アップデートプランより抜粋(2023年3月発表内容含む。))

1 開校時期及び場所

2025年4月開校 豊橋工科高校

2026年4月開校 豊田西高校、小牧高校、一宮高校

2 夜間中学の対象となる生徒、教員数、支援内容等

| 項目 | 内容 |
|-----------------|---|
| ① 対象となる生徒 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 義務教育を修了しないまま学齢期を経過した方 ○ 不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学を卒業した方 ○ 本国や我が国で義務教育を修了していない外国籍の方 ※不登校の生徒が中学校に籍をおきながら夜間中学へ通うことも可能 |
| ② 生徒数 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年1学級10人程度、全体で10～30人程度(定員なし) ○ 日本国籍の生徒が2割、外国籍の生徒が8割 〔日本国籍の生徒の半数は60歳以上 外国籍の生徒はほとんど15才～39才〕 ※国籍、年齢層については、文部科学省「令和元年度夜間中学に関する実態調査」から推計 |
| ③ 教員数 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 専任の管理職1人、教諭10～15人程度、養護教諭1人、通訳など、合計15人程度 |
| ④ 支援内容 | 外国人生徒 <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本語専門教師による日本語の習得に向けた系統的な学習を実施 ○ 母語指導教師による学習や生活支援を実施 ○ 外国にルーツをもつ生徒が日本語を含む学力を身に付ける ➡ 就職を希望する生徒が多いことから、高校で日本語を含めた学力を身に付けることができるよう、夜間定時制高校への進学を支援 |
| | 不登校生徒 <ul style="list-style-type: none"> ○ 学齢期を経過した生徒が中学校卒業程度の学力を身に付ける ➡ 基礎からの学び直しにより、確かな学力を身に付け、社会的自立ができるよう、夜間定時制高校への進学や就職を支援 ○ 学齢期の不登校生徒が、在籍校に籍を置きながら夜間中学において授業を受けられる学びの場を提供 |
| ⑤ 学校施設 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室(ホームルームや特別教室)、図書室、保健室、運動場、体育館は、高校施設を共用 ○ 職員室は、既存の部屋を改修 ○ 豊田西高校は、主に中高一貫の中学校施設を共用 |
| ⑥ 若者・外国人未来塾との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 「若者・外国人未来塾」を運営するNPO、外部の専門機関の日本語指導者・学習支援員が、夜間中学を訪問し、生徒の日本語習得と学び直しを支援 |

アンケート調査の結果について

実施期間：2023年6月13日（火）から7月14日（金）まで

対象：夜間中学の対象となる者で、夜間中学で学んでみたいと思う者

ちらし配付先：市町村教育委員会、保健所、図書館、博物館、県民事務所広報コーナー、
（名古屋市除く）県生涯学習推進センター、県教育・スポーツ振興財団、県及び市町村
社会福祉協議会

その他：別途メールにて、市町村多文化共生推進担当及び県国際交流協会、
若者・外国人未来応援事業運営団体あて送付

回答数：Web 46件、FAX等 61件 計 107件

※以下の表中、割合は四捨五入しているため、合計が100とならない場合あり

①年齢

| | 国籍 | | | 計 | | 内) 通学を希望する者※ | |
|----------|----|----|-----|-----|-------|--------------|-------|
| | 日本 | 外国 | 無回答 | | | | |
| 0～15歳 | 6 | 14 | 1 | 21 | 19.6% | 13 | 17.6% |
| 1 16～19歳 | 1 | 24 | 0 | 25 | 23.4% | 22 | 29.7% |
| 2 20～29歳 | 4 | 9 | 3 | 16 | 15.0% | 8 | 10.8% |
| 3 30～39歳 | 0 | 8 | 0 | 8 | 7.5% | 4 | 5.4% |
| 4 40～49歳 | 6 | 7 | 2 | 15 | 14.0% | 10 | 13.5% |
| 5 50～59歳 | 5 | 7 | 0 | 12 | 11.2% | 10 | 13.5% |
| 6 60～69歳 | 3 | 0 | 0 | 3 | 2.8% | 2 | 2.7% |
| 7 70歳～ | 6 | 0 | 0 | 6 | 5.6% | 5 | 6.8% |
| 無回答 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0.9% | 0 | 17.6% |
| 合計 | 31 | 69 | 7 | 107 | - | 74 | - |

※⑥でいずれかの学校に通いたいまたは通える学校がないと回答した者 n=74

・通学を希望する者は10代から70代まで幅広く、若年層は外国籍の者が多かった。

②国籍

| | | | | | |
|-------|----|-------|-------|-----|------|
| 日本 | 31 | 29.0% | ベトナム | 4 | 3.7% |
| ネパール | 21 | 19.6% | インド | 2 | 1.9% |
| ブラジル | 11 | 10.3% | モンゴル | 1 | 0.9% |
| フィリピン | 8 | 7.5% | ミャンマー | 1 | 0.9% |
| 中国 | 7 | 6.5% | 無国籍 | 1 | 0.9% |
| ペルー | 7 | 6.5% | 無回答 | 7 | 6.5% |
| スリランカ | 6 | 5.6% | 合計 | 107 | - |

・日本を除き、10か国の者が夜間中学での学習を希望している。

③中学校を卒業しているか

| | 国籍 | | | 計 | |
|-------------------|----|----|---|-----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 1 卒業している | 15 | 39 | 4 | 58 | 54.2% |
| 2 卒業していない | 7 | 12 | 0 | 19 | 17.8% |
| 3 卒業したが、十分に通えなかった | 7 | 12 | 1 | 20 | 18.6% |
| 4 現在、中学生である | 2 | 5 | 1 | 8 | 7.5% |
| 無回答 | 0 | 1 | 1 | 2 | 1.9% |
| 合計 | 31 | 69 | 7 | 107 | - |

- ・多くの者が日本または母国で中学校を卒業していた。
- ・卒業していない者は、日本国籍の者は70歳以上の高齢者が多く、外国籍の者は39歳以下の若年層が多かった。

④在住市町村

| | 国籍 | | | 計 | |
|------|----|----|---|----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 名古屋市 | 11 | 30 | 1 | 42 | 39.3% |
| 春日井市 | 0 | 3 | 0 | 3 | 2.8% |
| 瀬戸市 | 1 | 3 | 0 | 4 | 3.7% |
| 尾張旭市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 江南市 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.9% |
| 小牧市 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1.9% |
| 一宮市 | 4 | 0 | 0 | 4 | 3.7% |
| 津島市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 半田市 | 2 | 0 | 0 | 2 | 1.9% |
| 美浜町 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 碧南市 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1.9% |
| 刈谷市 | 3 | 1 | 0 | 4 | 3.7% |

| | 国籍 | | | 計 | |
|-----|----|----|---|-----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 安城市 | 3 | 1 | 1 | 5 | 4.7% |
| 知立市 | 1 | 13 | 2 | 16 | 15.0% |
| 高浜市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 西尾市 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.9% |
| 岡崎市 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1.9% |
| 豊田市 | 2 | 1 | 1 | 4 | 3.7% |
| 新城市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 豊橋市 | 0 | 4 | 1 | 5 | 4.7% |
| 豊川市 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1.9% |
| 蒲郡市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 県外等 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 無回答 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0.9% |
| 合計 | 31 | 69 | 7 | 107 | - |

⑤在勤市町村

| | 国籍 | | | 計 | |
|------|----|---|---|---|------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 名古屋市 | 5 | 2 | 0 | 7 | 6.5% |
| 瀬戸市 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1.9% |
| 小牧市 | 0 | 2 | 0 | 2 | 1.9% |
| 半田市 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.9% |
| 東海市 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0.9% |
| 大府市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 美浜町 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 刈谷市 | 1 | 2 | 1 | 4 | 3.7% |

| | 国籍 | | | 計 | |
|-----|----|----|---|-----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 安城市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 知立市 | 0 | 3 | 1 | 4 | 3.7% |
| 高浜市 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0.9% |
| 豊田市 | 1 | 3 | 1 | 5 | 4.7% |
| 豊橋市 | 0 | 5 | 1 | 6 | 5.6% |
| 豊川市 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1.9% |
| 無回答 | 21 | 45 | 3 | 69 | 64.5% |
| 合計 | 31 | 69 | 7 | 107 | - |

⑥通いたい学校

| | 国籍 | | | 計 | |
|---------------|----|----|---|-----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 1 一宮高校（一宮市） | 4 | 4 | 0 | 8 | 7.5% |
| 2 小牧高校（小牧市） | 1 | 6 | 0 | 7 | 6.5% |
| 3 豊田西高校（豊田市） | 6 | 3 | 0 | 9 | 8.4% |
| 4 豊橋工科高校（豊橋市） | 1 | 7 | 1 | 9 | 8.4% |
| 5 通える学校がない | 15 | 24 | 2 | 41 | 38.3% |
| 6 通いたいと思わない | 4 | 19 | 3 | 26 | 24.3% |
| 無回答 | 0 | 6 | 1 | 7 | 6.5% |
| 合計 | 31 | 69 | 7 | 107 | - |

- ・ 各校 10 名程度の希望があった。
- ・ 通える学校がないと回答した者の多くは名古屋市在住者であった。学校へのアクセス方法の周知が不十分であることも考えられる。

⑦夜間中学に通いたいと思わない理由 ※複数回答

(⑥で「通いたいと思わない」または無回答だった者 n=33)

| | 国籍 | | | 計 | |
|------------------------|----|----|---|----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 1 他の学校、フリースクールで学んでいるから | 1 | 5 | 0 | 6 | 18.2% |
| 2 平日の夜に通うのは難しいから | 1 | 5 | 0 | 6 | 18.2% |
| 3 毎日（週5日）通うのは難しいから | 2 | 3 | 0 | 5 | 15.2% |
| 4 集団での学習に不安があるから | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| 5 全ての教科を学びたいと思わないから | 1 | 3 | 0 | 4 | 12.1% |
| その他 | 2 | 5 | 0 | 7 | 21.2% |
| 無回答 | 0 | 10 | 4 | 14 | 42.4% |

- 〈その他の回答のうち主なもの〉
- ・ 家から近い学校がないから
 - ・ 名古屋市内にないから

- ・ 他の学校等で学んでいることから、夜間中学で新たに学ぶことを希望しない者が一定数いる。
- ・ 平日の夜に通うことや毎日通うことに対し、負担と感じる者が多い。

⑧夜間中学で学びたい理由 ※複数回答

(⑥でいずれかの学校に通いたいまたは通える学校がないと回答した者 n=74)

| | 国籍 | | | 計 | |
|-----------------|----|----|---|----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 1 中学校の勉強をしたいから | 19 | 19 | 2 | 40 | 54.1% |
| 2 日本語を勉強したいから | 5 | 28 | 0 | 33 | 44.6% |
| 3 日本の高校に入学したいから | 3 | 19 | 0 | 22 | 29.7% |
| 4 働くために必要だから | 7 | 28 | 0 | 35 | 47.3% |
| 5 学校生活を送りたいから | 8 | 5 | 0 | 13 | 17.6% |
| その他 | 1 | 4 | 0 | 5 | 6.8% |
| 無回答 | 2 | 2 | 1 | 5 | 6.8% |

- 〈その他の回答のうち主なもの〉
- ・ 友達をつくりたいから
 - ・ 将来看護師資格を取得したいから
 - ・ 中学に通っているが内容がわからないから
 - ・ 高校中退したのでもう一度チャレンジしたいから

- ・ 中学校の勉強を希望する者が一番多い。
- ・ 「日本語の勉強」「高校への進学」「働くため」を理由に挙げている者は、若い外国籍の者に多く、ステップアップのために希望しているとみられる。

⑨夜間中学に期待すること ※複数回答

(⑥でいずれかの学校に通いたいまたは通える学校がないと回答した者 n=74)

| | 国籍 | | | 計 | |
|------------------|----|----|---|----|-------|
| | 日 | 外 | 無 | | |
| 1 小学校からの学び直し | 14 | 12 | 2 | 28 | 37.8% |
| 2 4年以上かけてゆっくりと学ぶ | 10 | 3 | 0 | 13 | 17.6% |
| 3 1年間や2年間での卒業 | 7 | 23 | 0 | 30 | 40.5% |
| 4 生活、進学、就職の相談 | 8 | 30 | 0 | 38 | 51.4% |
| 5 学校給食 | 9 | 2 | 2 | 13 | 17.6% |
| その他 | 6 | 3 | 0 | 9 | 12.2% |
| 無回答 | 0 | 3 | 1 | 4 | 5.4% |

- 〈その他の回答のうち主なもの〉
- ・ 中学校で不登校だったため、学び直しがしたい
 - ・ 自由に休めると良い
 - ・ 宗教上の配慮をしてほしい
 - ・ 身心不調への継続的な支援
 - ・ 算数かけ算から勉強したいから
 - ・ 働きながら土日に夜間中学で昼間学びたい

- ・ 多くの者が「生活、進学、就職の相談」を希望している。
- ・ 40代以上の方は4年以上かけて学ぶことを希望しており、若年者は1、2年で卒業し次のステップへ進むことを希望している傾向がある。
- ・ 約4割の者が小学校からの学び直しを希望している。

第 1 回 部 会 及 び ヒ ア リ ン グ で の 意 見

1 第 1 回 部 会 に お け る 主 な 意 見

論点 1 生徒の受入れに関すること

- ・ 調査を行い、ニーズを把握したうえで、生徒募集を考えるとよい。
- ・ 外国にルーツをもつ生徒の日本語能力も様々であるので、ニーズを把握し、主たる対象となる生徒を固める必要がある。
- ・ 学齢期の生徒を夜間中学で受け入れているところは全国的にも少ない。受入れに当たっては、在籍校と夜間中学の連携も必要となる。

論点 4 教職員等の配置に関すること

- ・ 夜間に授業を行う学校であり、昼間の学校にはないリスクがある。校長が責任をもって運営できる体制とすることが重要である。
- ・ 教員配置は再任用の活用も含めて検討するとよい。
- ・ 教員以外の通訳などの専門スタッフをしっかりと確保することは重要である。
- ・ 開校準備に専念できる職員を配置する必要がある。時間割の調整や施設の準備があるため、受け入れる側となる高校にも必要だと思う。

論点 5 設置形態に関すること

- ・ 一人の中学校長が 1 校を管理・運営する単独校とするのが自然である。生徒の所属意識の面でも単独校とした方がよい。
- ・ 地域のニーズに差もあることから、単独校が良いと思う。

2 夜間中学を設置する学校所在市へのヒアリング結果（7月実施）

学齢期の不登校生徒

- ・ 不登校生徒は個別でなければ指導が難しいため、一斉授業を前提とした夜間中学に通う生徒は少ないのではないかと。
- ・ 不登校生徒の抱える事情はそれぞれであるので、年度途中の出入りが認められるとよい。
- ・ 不登校生徒は同じ中学生からどう思われているか気にする生徒が多いと感じる。同世代の生徒のいない夜間中学は、不登校生徒にとって通いやすい環境ではないかと。

外国にルーツのある者

- ・ 外国にルーツのある生徒は、日本語能力の問題で学校の授業についていくことが難しいため、不登校の割合が比較的高く、また、小学校から中学校まで不登校状態が続く傾向にある。
- ・ 外国にルーツのある生徒の保護者には、より良い職業選択のため、高校卒業資格が必要であると考えている人が少なくない。高校入学資格を得るために、夜間中学への入学希望がある程度見込まれるのではないかと。

論点1 生徒の受入れに関する事

1 入学時期等（前回と同じ）

- 入学時期は、原則、毎年4月とし、生徒の募集は前年の秋以降に十分な期間を設けて実施する。
- 年度途中の入学については、個別相談のうえ受け入れることとする。
- 生徒のこれまでの学習状況等を踏まえて、2学年や3学年への編入学を認める。
- 生徒募集に先立って、毎年、前年の夏頃に学校説明会を実施する。

2 入学対象（今回提示）

- 県内在住または在勤で、学齢を経過しており、次のいずれかに該当する者（国籍は問わない）
 - ・日本または海外で義務教育を修了していない者
 - ・不登校など様々な事情により十分な教育を受けられないまま中学校を卒業した者
- 夜間定時制高校と同様に**通学区域は県内全域とする。**

※学齢期の不登校生徒（外国籍の生徒を含む）について

- ・在籍校に籍を置いた状態で、通学可能な範囲において、「学びの場」を提供する。
- ・他の生徒と一緒に時間割に沿って授業を受けることとする。

3 修業年限（今回提示）

- 通常の中学校同様、3年間で教育課程を修了することとするが、個々の状況に応じて、**最長6年まで在籍を可能とする。**さらに、校長の判断で、延長することを可能とする。

論点2 学習内容に関する事

<国の考え方>

（28文科初第1874号 学校教育法施行規則の一部を改正する省令等の施行について（通知））
 学齢経過者等に対して、特別の教育課程によることができ、その内容は個別で判断することとされている。

1 1日の授業時数（今回提示）

- 4時限、40分授業とする。

参考：他の県立夜間中学（3県各1校）は、全て「4時限、40分授業」としている。

2 コース設定（今回提示）

- 複数のコースを設定する。コース選択は面談により決定する。
 - ・学習状況（習熟度）に応じたコースを設置する。小学校段階からの学び直しにも対応する。
 - ・外国にルーツのある生徒が多くを占めると想定されるため、学習言語の習得を目指す日本語指導に重点を置いたコースも設置する。

[学習内容のイメージ]

※中学校標準授業時数が1015時間（1単位時間：50分）に対し、他県の夜間中学では年間総時間数は700時間程度としている。

参考：徳島県立しらすぎ中学校

- チャレンジコース（3コース）：学習状況（習熟度）に応じた授業を実施
- ベーシックコース（2コース）：日本語指導を重点的に実施

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | |
|--------|-------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---------|---------|---------|------|---------|-----------|------------|----|--|
| チャレンジ1 | 国語 | | | 社会 | | 数学 | | | 理科 | | 音美 | 保体 | 技家 | 外国語(英語) | | 総合 | 道徳学活 | 小学校～中1程度 | | | |
| チャレンジ2 | 国語 | | | 社会 | | 数学 | | | 理科 | | 音美 | 保体 | 技家 | 外国語(英語) | | 総合 | 道徳学活 | 中1～中2程度 | | | |
| チャレンジ3 | 国語 | | 社会 | | 数学 | | | 理科 | | 音美 | 保体 | 技家 | 外国語(英語) | | 総合 | 道徳学活 | 中2～中3程度 | | | | |
| ベーシック1 | 日本語指導 | | | | | | | | 数学 | | 音美 | 保体 | 技家 | 外国語(英語) | | 総合 | 道徳学活 | 日本語0～初級程度 | | | |
| ベーシック2 | 日本語指導 | | | | | | 社会 | | 数学 | | 理科 | 音美 | 保体 | 技家 | 外国語(英語) | | 総合 | 道徳学活 | 日本語初級～中級程度 | | |

論点4 教職員等の配置に関すること

1 教職員

- 夜間中学の校長は、高校の校長が兼ねることとし、専任で従事する副校長を配置する。(今回提示)
- 小学校程度からの学び直しに対応するため、小学校と中学校の両方の教員免許を持つ小中学校教員を配置する。(前回と同じ)
- 青年期の生徒の学習・進路指導を行うため、中学校の教員免許を持つ高等学校教員を配置する。(前回と同じ)
- 役職定年者や再任用教員の配置を検討する。(今回提示)
- 技能教科については、非常勤講師等の配置を検討する。(今回提示)

[教員配置のイメージ] ※3学級と仮定(別途日本語指導加配がつく可能性あり)
(案・全国の夜間中学を参考とした配置)

| 区分 | 副校長 | 教頭 | 主要教科 | | | | | 技能教科 | | | | 合計 | 養護教諭 |
|-----|-----|----|------|----|----|----|-----|--------|----|----|----|----|------|
| | | | 国語 | 数学 | 理科 | 社会 | 外国語 | 保体 | 音楽 | 美術 | 技家 | | |
| 小中 | 1人 | — | 1人 | 1人 | 1人 | — | 1人 | 非常勤講師等 | | | | 5人 | 1人 |
| 高・特 | — | — | 1人 | 1人 | — | 1人 | 1人 | | | | | 4人 | |

- ・小中学校での指導経験者が多く、小学校程度からの学び直しも含めた指導がしやすい。
- ・管理職が小中学校での勤務経験者であるため、教育課程の管理等がしやすい。

[教員の勤務時間のイメージ]
13:00～21:45 (休憩時間1時間を含む)

2 教員以外の専門スタッフ (前回と同じ)

- 教職員に加え、生徒を支援する専門スタッフの配置が必要となる。

3 開校準備員 (前回と同じ)

- 開校の前年度に、校内体制、年間行事予定、各種指導計画を作成する教員と必要物品の購入等を行う事務職員とを開校準備員として配置する。

論点5 設置形態に関すること

1 設置形態 (今回提示)

- 地域のニーズに合わせた教育内容とするため、4校を単独校とする。

| 設置形態 | 2025年開校 | 2026年開校 |
|-------|-------------|--|
| 全て単独校 | ◇◇中学校(豊橋工科) | <ul style="list-style-type: none"> ■■中学校(一宮) ☆☆中学校(小牧) ◆◆中学校(豊田西) |

2 始業と終業の時間 (今回提示)

- 概ね17時から21時までの間で、各学校で決定する。

[授業終始の時刻のイメージ]

| | |
|-------------|------------|
| 17:00～17:35 | (給食・学習支援等) |
| 17:45～18:25 | 1時間目 |
| 18:35～19:15 | 2時間目 |
| 19:15～19:20 | ホームルーム |
| 19:25～20:05 | 3時間目 |
| 20:15～20:55 | 4時間目 |

(給食の時間は、高校と調整し、授業前若しくは休み時間に設定する。)

3 学校施設 (今回提示)

- 既存施設を活用する中で、主に使用する教室を1階とするなど、高齢の生徒や障害・持病を抱える生徒が通いやすいよう配慮する。